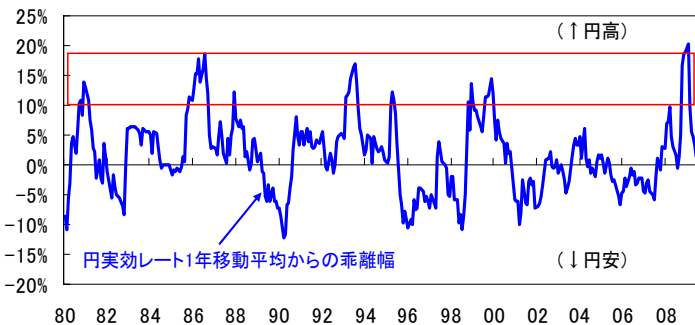


円相場のアノマリー（相場の癖のようなもの）

- ✓ 為替相場にはアノマリーと呼ばれる、相場特有の癖のようなものが存在する。
- ✓ 円実効レートとユーロ/円は1年移動平均からの円高方向への乖離幅がそれぞれ約+10%、-10%を超過するゾーンは円高反発ゾーンとなってきた。
- ✓ 豪ドル/円は90年代以降、4年移動平均からの円高方向への乖離幅が-20%を超えたところが円高反発ゾーンとなってきた。
- ✓ ドル/円は90年代以降、1年移動平均からの円高方向への乖離幅が-10%を超えたところが円高反発ゾーンとなってきた。

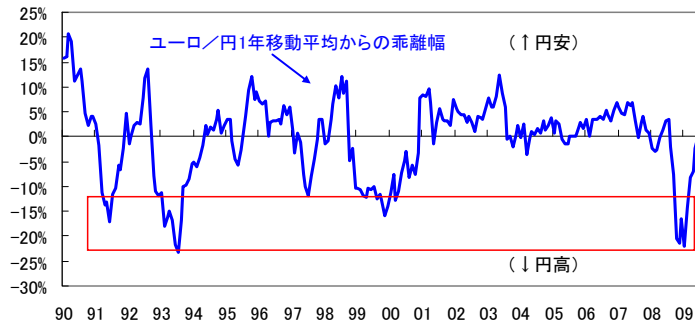
為替市場にはアノマリーといわれる現象が多くあります。アノマリーとは、相場の動きについて合理的な説明ができない相場特有の癖のことです。例えば、円実効レートの1年移動平均（※）からの乖離幅を見ると、約+10%を超過して円高が進んだゾーン（図表①四角囲い部分参照）では円高が収束し、円安方向に反発する傾向が見られます。また、ユーロ/円の1年移動平均からの乖離が約-10%を超過して円高が進んだゾーンでは（図表②四角囲い部分参照）円高が収束して、円安方向に反発する傾向が見られます。（※）相場の値動きを平準化し傾向を抽出した値

【図表①】



出所：ブルームバーグ

【図表②】

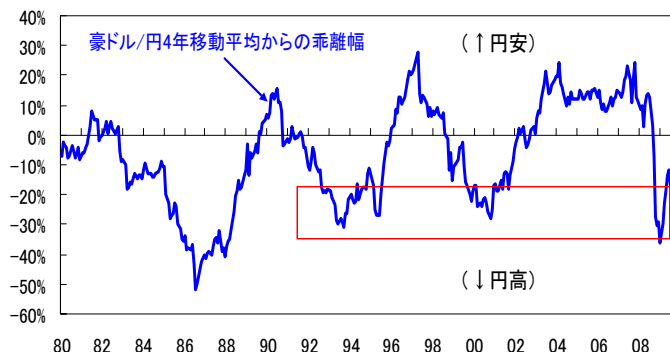


注：1999年以前のユーロ/円の算出には理論値を使用

出所：ブルームバーグ

豪ドル/円は90年代以降、4年移動平均からの乖離が-20%を超過して円高が進んだゾーン（図表③四角囲い部分）では、円高が収束し円安方向に反発する傾向が見られます。

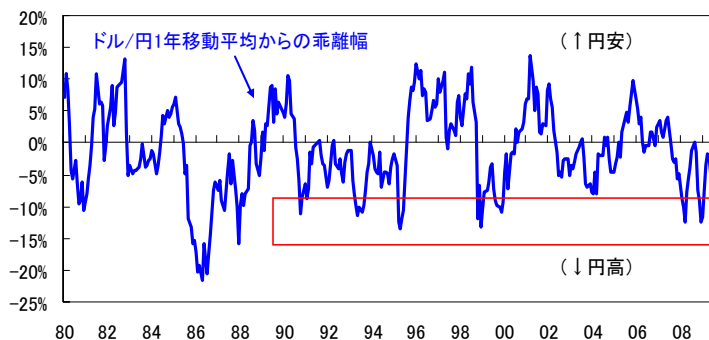
【図表③】



出所：ブルームバーグ

ドル/円は90年代以降、1年移動平均からの乖離が-10%を超過して円高が進んだゾーン（図表④四角囲い部分）では、円高が収束し円安方向に反発する傾向が見られます。

【図表④】



出所：ブルームバーグ

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

